

1人1台端末の活用による実践事例

学校名	岡山大学教育学部附属特別支援学校	実践者名	田中 真一郎
実践場面 (教科)	国語		
単元・題材名	漢字を書こう		
学習目標・ねらい	簡単な漢字の書き順を覚えて、なぞり線に沿って書くことができる。		
対象の児童生徒の 実態	小学部6年生 ・小学校1、2年生で学ぶ漢字の読み方や意味を理解しているが、書き順を意識せずに書くことが多い。 ・アプリを使用すれば、一人で集中して書く学習に取り組むことができる。		
活用の概要（使用アプリ名を含む） ※写真も掲載する			

【実践で使う機器・アプリ等】

機器：iPad アプリ：『一年生の漢字』『二年生の漢字』

第1時：iPadを使って一年生の漢字を書こう(国語)

目標：アプリを通して一年生の漢字の書き順を覚えて、指やペンでなぞり書きすることができる。

- ・アプリ内の各項目(書く、読む、かるたゲーム)の使い方や内容を理解する。アプリの「書く」の項目を選択する。
- ・書き順の通りに書くことで、次の漢字問題に進むことができるというルールを理解して、正確に漢字を書く。
- ・10文字程度を書いてから、自分の書いた漢字について、アプリ内の採点機能を用いて評価を受ける。

第2時：iPadを使って二年生の漢字を書こう(国語)

目標：アプリを通して二年生の漢字の書き順を覚えて、指やペンでなぞり書きすることができる。

- ・書き順を意識しながら、繰り返し漢字を書く学習に取り組み、書き方や意味を正確に覚える。
- ・10文字程度書いてから自分の書いた漢字について、アプリ内の採点機能を用いて評価を受ける。
- ・プリント学習と組み合わせることで、漢字の書き方を覚えて、生活の中でも活用することができるようにする。



活用のポイント・改善策等

- ・簡単な操作で学習できるアプリを活用した。
- ・使い方が分かれば、家庭で一人でも集中して取り組みやすい。
- ・子ども達の目標に応じて、漢字のレベルを上げることができる。
- ・「読み・書き」についてのゲーム的な機能などを用いて、家庭で楽しみながら学習することができる。また、アプリの機能を用いて漢字を題材とした単元を構成しやすい。
- ・インターネット上でダウンロードする漢字プリントと合わせて学習することで、家庭で教材を準備して漢字を書くことができ、学習効果を高めることができる。